

## 令和5年度全国学力学習状況調査結果概要

今年度も全国学力学習状況調査が実施されました。この結果は児童の学力の全てを把握するものではなく学力の特定の一部を示しているものですが、これを分析して成果と課題を明確にし、今後の学習活動や生活の改善にいかしていくことが重要であると考えています。以下に本校の調査結果の概要を示します。



### 【国語・算数】

- ・ 本校の国語の平均正答率は全国や奈良県の平均よりも低くなっています。約97%の児童が「国語の勉強は大切だ」と考えていますが「国語が好き」と答えた児童は半数程度に留まっています。全体的には「文の中で漢字や敬語を正しく使うこと」や「文を読んで内容を正しく理解すること」「話す・聞くに関すること」に弱い傾向が見られました。今後も基礎基本の学習を大切にしながら児童の実態に合わせた分かりやすい授業を工夫していく必要があります。
- ・ 「話す・聞く」ことについて、話し手が伝えたいことを中心をとらえたり相手の考えと比較しながら自分の考えをまとめたりすることが苦手な児童の割合が特に高くなっていました。その一方で「情報の使い方に関する事項」については比較的正確率が高い結果となりました。この項目は今回の指導要領改訂で新しく追加された内容です。話や文章に含まれている情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるように今後も指導を継続していきたいと思えます。
- ・ 本校の算数の平均正答率は全国や奈良県の平均よりも高くなっており、75%の児童が「算数の授業の内容はよくわかる」と回答しました。これまで授業で ICT 機器を活用して楽しい授業・分かる授業の工夫に取り組んできたことや、デジタルドリルを積極的に活用してきたことの成果が徐々に出てきていると考えます。今後も引き続き取組を進めていくとともに作業的・体験的な活動を工夫しながら理解を深める授業を展開していきます。
- ・ 授業の中での ICT 機器の利用の程度は全国や県の平均を大きく上回っており97%の児童が ICT 機器を使うことは勉強の役に立つと考えています。今後も学習の中で積極的に ICT 機器の活用を進めていきます。

### 【学習状況(学習意欲・方法・環境・生活等)】

- ・ 家庭学習の時間は、全国や県の平均よりも短い傾向にあります。低学年のうちから、保護者と連携して家庭学習の習慣づけを行い、自主的に学習をする態度を養えるよう取り組んでいきます。
- ・ 読書が好きな児童の割合や図書室・地域の図書館の利用状況は平均値と大きな差がありませんが読書時間がとても短い傾向にあります。読書は児童の語彙力や読解力を高めることにもつながるので、今後も学校司書と連携しながら読書活動を推進する取組を進めます。
- ・ 「将来の夢や目標を持っている」児童の割合は全国や県の平均よりも高くなっていました。今後も引き続き将来の夢や目標について考える機会を増やす取組を進め、キャリア教育を推進していきます。
- ・ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の問いに対して95.6%の児童が肯定的な回答をしました。引き続き「いじめ防止基本方針」に沿って、いじめを許さない心の育成に努めていきます。
- ・ 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」に肯定的な回答をした児童の割合が全国や県の平均よりも低くなっています。多様な考えを認め合う取組や対話的に学習する取組の推進が必要であると考えます。